

はち の子だより

No.6

豊橋市立岩西小学校

第1回岩西支援会 ありがとうございました

6月17日(土)に岩西支援会の皆様をお迎えし、委嘱状交付、学校経営方針の説明のあと、授業参観をしていただきました。「去年に比べて手がよく挙がるようになった」「子どものあいさつの声に元気をもらっている」「卒業した中学生もあいさつをしてくれる」などのお言葉をいただきました。今後ご指導、ご助言をいただきながら教育活動をすすめていきます。



中校舎西側工事終了。5・6年生、中校舎へ

5・6年生が4か月ぶりに中校舎へ戻りました。テレビや棚などの大きなもの以外は子どもたちが新しい教室へ運び込みました。きれいにリフォームされた教室で快適に過ごすことができます。

校舎長寿命化改良工事は、最後の第4期(中校舎東側)に入ります。7月24日からは、校長室、職員室、配膳室などが仮設校舎へ移ります。保護者の皆様、地域の皆様には令和6年2月頃までご不便、ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。



廊下は、木のぬくもりが感じられます。

黒板は上下に稼働し、床はぴかぴかに磨かれています。



保健室のベッドは収納でき、スペースが広く使えます。

手洗い場は、清潔感にあふれています。



『豊橋・学校いのちの日』～『いのち』について考えました～

平成22年6月18日、中学校の野外教育活動中にカッターボートが転覆し、ひとりの尊い命を失いました。豊橋市では、6月18日を『豊橋・学校いのちの日』としています。本校においても、子どもたちが『いのち』について考え、その大切さを見つめる期間をもちました。本年度は、校長による『いのち』に関する本の読み聞かせ、『いのち』に関わる道徳の授業などを行いました。教職員も「学校の安全管理・危機管理」を再確認しました。



『いのち』についての授業 ご参観ありがとうございました

子どもたちの振り返りより

《1年児童》

みぎ、ひだりをちゃんとみて、おうだんほどをあるく。くるまとくるまのあいだはとおらないで、くるまがないところで、みぎ、ひだりをみてわたる。(てをあげてわたる)しゃべらないでわたる。

保護者様からのご感想

《1年保護者》

下校時に、友達につられて走ることがありヒヤッとした日もありました。注意はしましたが、授業を通して家でも再認識することができました。今回の授業は新1年生のニーズに応じて頂き本当にありがとうございました。



《2年児童》

ほかの人がじこにあったらあげましてあげたいな。じぶんはじこにあわないようにしたい。おかあさんにもらった(いのち)もの。



《2年保護者》

普段あまり考えたことのない命について悩みながらも真剣に考える様子が見られました。通常の授業とは違い、答えが一つではない内容のものに取り組む子どもたちの姿勢がとてもよかったです。



《3年児童》

花もやさいもみんないのちをもっているから、やさいとか育てているときも、いのちを育てていることがわかった。



《3年保護者》

先生が最後にご家族のお話をされた時、子どもたちの表情が一気にグッと真剣な眼差しになったように感じました。普段から先生と子どもたちがよくコミュニケーションが取れていて、それでそのお話になった時授業内容と重ねてその表情だったのかなと思いました。子どもたちにも聞いていた親にも今一度いのちについて考えてそれを言葉にする機会になりました。



《4年児童》

命は一度きりで一度なくすともう一生もどってこなくなるから。お父さんやお母さんやいろいろな人からもらった命だから大切にしなければいけません。



《4年保護者》

赤ちゃんの頃の事を思い出し、大きくなったんだな、命についてこんな風に感じられるようになったんだなと、とても嬉しく思いました。自分の命の大切さを考えられる機会はなかなか無いので、道德教育の大切さを感じました。



《5年児童》

友達とは、ちがうところや同じところがあることを知りました。ちがうところもあってけんかをしてしまうけど、ちがうところがあるから楽しいです。好ききらいがちがってもいいと思いました。だからこそ、相手のことを大切にしたいです。



《5年保護者》

いのちの尊さや大切さ、みんな違う個性があって他者への思いやりや優しさを学ぶきっかけになったのではないかと思います。

子供達が当たり前前に生活していることを改めて考えさせてくれる授業だと思いました。とてもいい授業でした。



《6年児童》

これから自分は、中学生になっていろんな人に出会うと思います。今は、一人ぼっちの子やいじめられている子は、見た感じ、いませんが、中学生になったら、いじめられている子がいるかもしれません。なので、これからの自分は、人の命を大切に、その子が亡くならないように、その子に寄り添ったり声をかけたり、家族や先生に思いを伝えたり、そういう取り組みもしていこうと思います。でも、しれども、わたしはその勇気がないかもしれない。その子に寄り添ったり声をかけたりはできないと思います。そうしたら、先生たちなどに思いを伝えたいと思います。



《6年保護者》

先生と子どもたちのやりとりを見ながら心の中では私も自分なりの答えを見つけ、授業に参加していました。普段漠然としていたものを具体的に言葉で捉えることでこれからは自分の子にこう伝えてみよう！と思う事ができ、親にとっても大切な授業になったと思います。



《たんぽぽ児童》

「しんちゃん、みさえさんやひろしさんがいなくて、いきていけるかな」いつもりょうりをいっぱい作ってくれてありがとう。



《たんぽぽ保護者》

日頃、普通に使っている「ありがとう」。どんな時に、誰に対して言っているのか、親としても考える良い機会になりました。授業を通じて、先生方の暖かき、子どもの成長を見守ってくれていること嬉しく思いました。そんな先生方と優しいお友達と過ごすことの出来る娘は、幸せです。生まれてきてくれてありがとう！今日は、ありがとうございました。

